

受益者のみなさまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております『世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンドブラジルリアルコース』は、2016年8月15日に第64期決算を行いました。

当ファンドは、主として世界各国のインフラ関連企業が発行する上場株式などに実質的に投資することによって、配当等収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。投資対象とする外国投資信託では、原則として投資対象資産の発行通貨を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行います。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに第59期から第64期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

第64期末(2016年8月15日)	
基準価額	7,370円
純資産総額	2,408百万円
第59期～第64期	
騰落率	35.5%
分配金(税込み)合計	600円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

(注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。

世界好配当アドバンスト・インフラ株式ファンド ブラジルリアルコース

追加型投信／内外／株式

【交付運用報告書】

作成対象期間(2016年2月16日～2016年8月15日)

第59期(決算日2016年3月15日)

第60期(決算日2016年4月15日)

第61期(決算日2016年5月16日)

第62期(決算日2016年6月15日)

第63期(決算日2016年7月15日)

第64期(決算日2016年8月15日)

新光投信株式会社は、2016年10月1日にみずほ投信投資顧問株式会社、D I A Mアセットマネジメント株式会社、みずほ信託銀行株式会社(資産運用部門)と統合し、商号をアセットマネジメントOne株式会社に変更する予定です(関係当局の認可等を前提とします)。

新光投信株式会社

東京都中央区日本橋1丁目17番10号

<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

当運用報告書の内容についてのお問い合わせ先

ヘルプデスク 0120-104-694

受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。

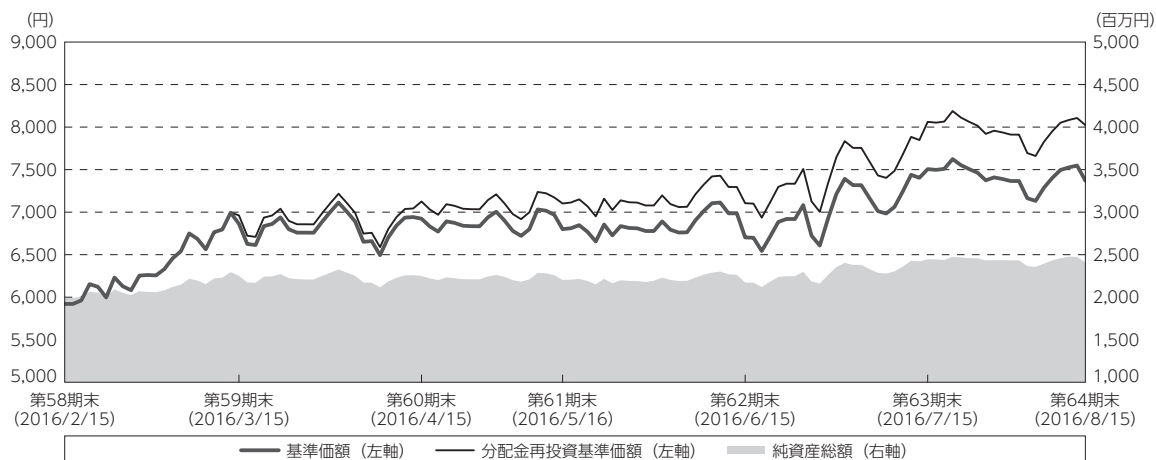
当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記ホームページの「基準価額一覧」などから当ファンドのファンド名称を選択することにより、ファンド詳細ページにおいて運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。運用報告書(全体版)は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

(18313-9916)

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2016年2月16日～2016年8月15日)



第59期首：5,921円

第64期末：7,370円 (既払分配金:600円)

騰落率：35.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2016年2月15日の値が基準価額と同一となるように指数化してあります。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として世界のインフラ関連企業が発行する上場株式などに実質的に投資することによって、配当等収益の確保と投資信託財産の成長を目指すファンドです。

当作成期間の基準価額は、外国為替市場でブラジルリアル高・円安となったため、為替変動部分はプラス寄与となったほか、実質的に投資する上場株式などもプラス要因となり、第59期首の5,921円から35.5%上昇し、第64期末には7,970円となりました。

※文章中の基準価額は、当作成期間における分配金(累計)を加算しています。

主として世界のインフラ関連企業が発行する上場株式などに投資する「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド」は2016年2月1日から2016年7月29日(現地日付)までの運用期間で、米ドルベースでの収益率(現金部分を除く)は14.9%のプラスとなりました。同期間のDow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Returnの収益率は20.3%のプラスでした。地域別寄与を見ると、英国を除く欧州がマイナス寄与となった一方で、北米がプラス寄与となりました。セクター別では、「石油・ガス 貯蔵・輸送」セクターがプラスに寄与しました。

1万口当たりの費用明細

(2016年2月16日～2016年8月15日)

項 目	第59期～第64期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	42 円	0.607 %	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{経過日数}}{365}$
(投 信 会 社)	(13)	(0.188)	委託した資金の運用、基準価額の算出などの対価
(販 売 会 社)	(28)	(0.403)	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・償還金・換金代金支払などの事務手続きなどの対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.005	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.005)	監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務に係る諸費用など
合 計	42	0.612	
作成期間の平均基準価額は、6,941円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

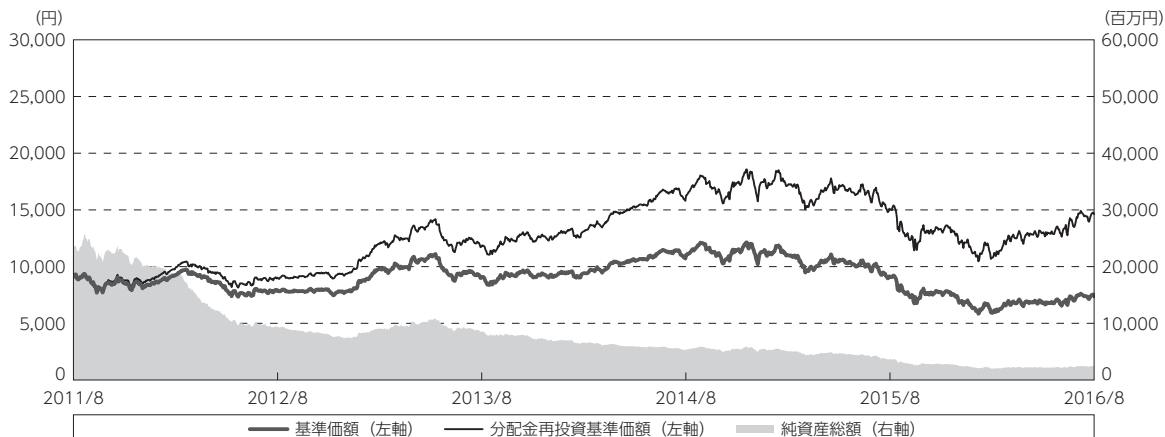
(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては組入上位ファンドの概要に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年8月15日～2016年8月15日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 分配金再投資基準価額は、2011年8月15日の値が基準価額と同一となるように指数化してあります。

	2011年8月15日 決算日	2012年8月15日 決算日	2013年8月15日 決算日	2014年8月15日 決算日	2015年8月17日 決算日	2016年8月15日 決算日
基準価額 (円)	9,080	7,820	8,893	11,139	9,141	7,370
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.6	30.0	41.4	△ 8.0	△ 4.2
Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return 騰落率 (%)	—	17.5	15.4	24.1	△ 5.7	5.8
Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return (円換算) 騰落率 (%)	—	20.3	43.3	29.9	14.4	△ 13.7
純資産総額 (百万円)	23,036	9,275	8,342	5,433	3,644	2,408

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
 (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 (注) Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return (円換算) は当ファンドの参考指数です。詳細は13ページをご参照ください。
 参考指数は投資対象資産の相場を説明する代表的な指数として記載しているものです。
 (注) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。
 (注) Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return (円換算) は、基準価額への反映を考慮して、基準価額算出日前日の指数値を基準価額算出日当日の為替レート(対顧客電信売買相場仲値)で円換算してあります。

投資環境

(2016年2月16日～2016年8月15日)

＜インフラ関連株式市場＞

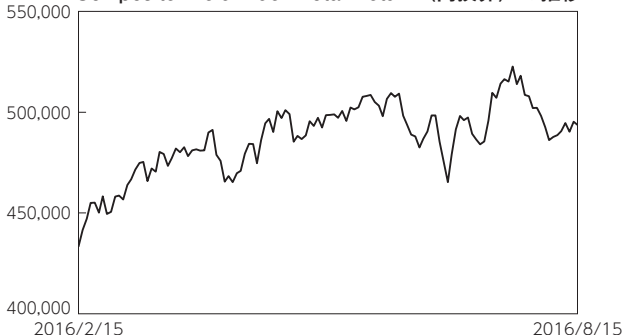
当作成期間のグローバル株式市場は上昇しました。第59期初は、原油価格の低迷や欧州の大手銀行の経営問題などでグローバル株式市場は軟調な地合いのなかで始まりました。しかし、主要産出国による増産凍結期待などで原油価格が反発するとグローバル株式市場も反発しました。その後も、底堅い米国景気や日欧の中央銀行の追加金融緩和への期待などから4月中旬にかけて上昇基調を辿りました。4月下旬以降は、1-3月期の企業業績が振るわなかったことがきっかけとなり上値の重い展開になると、その後に米国の早期利上げ観測が広がったことで反落する展開となりました。5月下旬には米国の住宅指標が良好だったことや英国の6月下旬に実施される国民投票でEU（欧州連合）残留派が優勢との見方が広がったことで上昇に転じたものの、6月中旬以降は投票見通しに不透明感が強まったことで値動きの荒い展開となり、実際の投票でEU離脱派が勝利を収めるとグローバル株式市場は急落する展開となりました。しかし、英国のEU離脱には時間がかかるとの見方が広がると市場は落ち着きを取り戻す展開となり、7月下旬以降は予想よりも良好だった4-6月期の企業業績や米国の早期利上げ観測の後退などを材料に上昇基調となり、第64期末にかけて高値圏での推移となりました。

こうしたなか、原油価格の反発を受けて北米の「石油・ガス 貯蔵・輸送」セクターが大きく上昇するなか、インフラ株式はグローバル株式を大幅に上回るパフォーマンスとなりました。

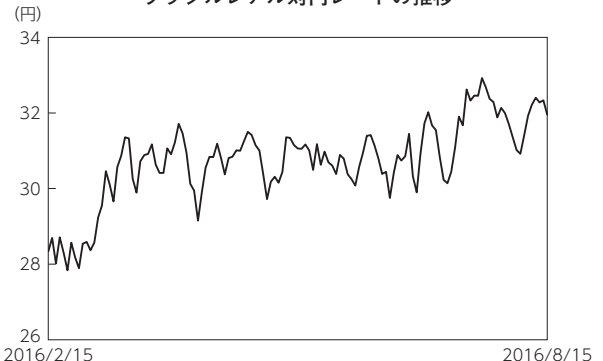
＜ブラジルリアル／円＞

ブラジルのルセフ大統領の失職期待から、ブラジルリアルは対米ドル、対円で上昇しました。第59期初は、ブラジル政局の混迷を受けてブラジルリアルは安値水準で始まりました。政権与党のひとつであるPMD B（民主運動党）の離反を受けてブラジル議会でルセフ大統領の弾劾審議が進むとブラジルリアルは対米ドルで上昇に転じました。4月半ばには下院で弾劾審議が可決されると、5月半ばに上院でも可決されルセル大統領の職務が停止し、テメル副大統領が大統領代行に昇格すると昨年夏以降の高値を付けました。6月に入っても、米国の早期利上げ期待が後退したため新興国通貨が買われる動きのなかでブラジルリアルは対米ドルで上昇基調が続きました。また、テメル大統領代行に任命されたメイレス財務大臣およびゴールドファイン中央銀行総裁に対する市場の信頼感もブラジルリアルの上昇に寄与

Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return (円換算) の推移



ブラジルリアル対円レートの推移



し第64期末にかけて対米ドルで上昇基調となりました。

一方、対円でも2月末から3月上旬にかけてブラジルリアルは上昇したものの、その後円高が進んだことでブラジルリアル対円レートはほぼ横這いの動きとなりました。

<国内短期金融市場>

国内短期金融市場については、日銀のマイナス金利の導入を受けて国庫短期証券3カ月の利回りはマイナスの水準で推移しました。

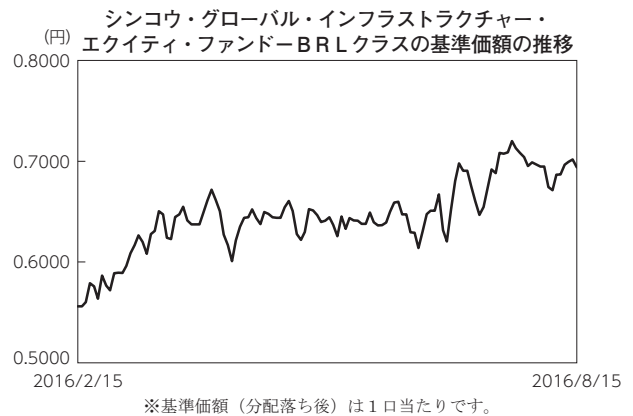
ポートフォリオについて

(2016年2月16日～2016年8月15日)

<当ファンド>

円建受益証券のケイマン諸島籍外国投資信託「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド-BRLクラス（以下「インフラファンド-BRLクラス」という。）」を通じて、世界のインフラ関連企業が発行する上場株式などに実質的に投資しました。「インフラファンド-BRLクラス」は、原則として、米ドル売り、ブラジルリアル買いの為替取引を行うことにより、実質的に当該対象通貨の為替変動を享受する運用を行いました。また、国内籍親投資信託「短期公社債マザーファンド」を通じてわが国の短期公社債に実質的に投資しました。

「インフラファンド-BRLクラス」の組入比率は当作成期間を通じて高位を維持し、第64期末時点では95.1%程度としました。一方、「短期公社債マザーファンド」の組入比率は第64期末時点で0.8%程度としました。



<シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド>

一貫してボトムアップ・アプローチおよびトップダウン・アプローチに基づき、主として世界各国に上場するインフラストラクチャー関連の株式などに投資を行いました。米ドル以外の通貨建ての有価証券に対して、原則として対米ドルでの為替取引を行い、米ドルヘッジベースで現地源泉税を含む諸経費を考慮したトータルリターンを追求しました。

<短期公社債マザーファンド>

残存1年以内の公社債を中心としたポートフォリオで運用を行いました。組入比率については、利回り水準などを考慮し、高位組入れを目指しました。

このような運用の結果、10,200円でスタートした基準価額は、第64期末には10,200円と変わらずとなりました。

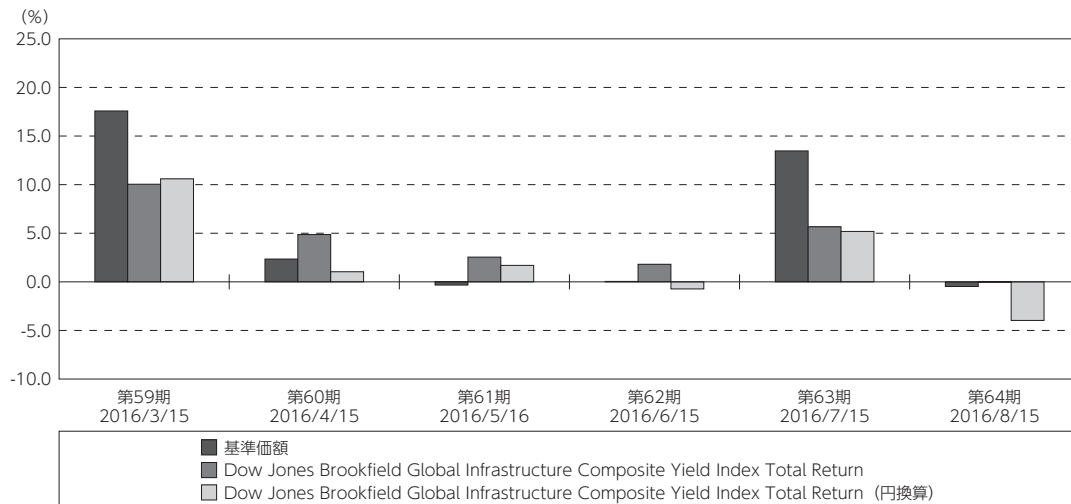
当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年2月16日～2016年8月15日)

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

グラフは、基準価額と参考指数の騰落率の対比です。ただし、実際の運用では、米ドル以外の通貨建ての有価証券に対して、原則として対米ドルでの為替取引を行い、さらに米ドル売り、ブラジルレアル買いの為替取引を行っているため、対象通貨の為替変動が反映されています。

基準価額と参考指数の対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 参考指数の詳細は13ページをご参照ください。

分配金

(2016年2月16日～2016年8月15日)

分配金につきましては収益分配方針に基づき基準価額水準や市況動向等を勘案して、第59期から第64期までそれぞれ1万口当たり100円としました。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第59期	第60期	第61期	第62期	第63期	第64期
	2016年2月16日～ 2016年3月15日	2016年3月16日～ 2016年4月15日	2016年4月16日～ 2016年5月16日	2016年5月17日～ 2016年6月15日	2016年6月16日～ 2016年7月15日	2016年7月16日～ 2016年8月15日
当期分配金	100	100	100	100	100	100
(対基準価額比率)	1.436%	1.424%	1.449%	1.470%	1.315%	1.339%
当期の収益	100	100	100	100	100	100
当期の収益以外	-	-	-	-	-	-
翌期繰越分配対象額	2,311	2,321	2,327	2,334	2,346	2,350

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<当ファンド>

世界のインフラ関連企業の動向やファンドの資金流入出に留意しながら、「インフラファンドーBR Lクラス」を高位に組み入れて運用を行う方針です。また、国内短期金融市場やファンドの資金流入出に留意しながら、「短期公社債マザーファンド」の組入れを適宜行う方針です。

「インフラファンドーBR Lクラス」は、原則として、米ドル売り、ブラジルリアル買いの為替取引を行います。

<シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド>

経済状況に不確実性がある現在のような環境において、ディフェンシブな性質と長期的な収益の予見性が高いグローバルインフラストラクチャーは、投資家にとって引き続き魅力的な投資対象です。短期的なイベントリスクによって市場のボラティリティ(株価の変動率)が高まる状況が続くと見えていますが、このような市場環境において投資収益獲得の機会を引き続きうかがいます。また、優良なインフラ企業によって創出されるキャッシュフローについても引き続き注目しています。

安定しつつある原油価格は引き続きサポート材料ですが、コモディティ市場に依然として残る不確実性と投機的な取引の影響によって、北米における設備投資は限定的になると見えています。このような環境の下、コモディティ価格のボラティリティの高まりによって影響を受けやすい企業に対しては慎重な見方をする一方、健全なファンダメンタルズ(基礎的諸条件)を持つ企業がその価値を無視して売られる局面において資金を振り向ける好機になると考えています。

英国の国民投票後の市場で見られたように、リスクオンとリスクオフで短期的にスイッチが切り替わる環境下において、慎重な姿勢を継続します。そういった中、保守的で規律があるリスク管理の下での「ディフェンシブ・グロース戦略」を継続します。ファンドでは、現在の不安定な経済状況を背景に各国の中央銀行の緩和政策が継続し、低金利環境がまだしばらくの間は支配的になると見えています。

高利回りかつ持続可能な利回りを有する実物資産の長期的な成長見通しは、依然として力強いものとなっています。長期的成長、持続可能な安定したキャッシュフロー、そして好配当利回りというグローバル上場インフラ株式の魅力が、同市場を今後もサポートしていくと見えています。

<短期公社債マザーファンド>

公社債を中心に投資を行い、安定した収益の確保を目指す所存です。

お知らせ

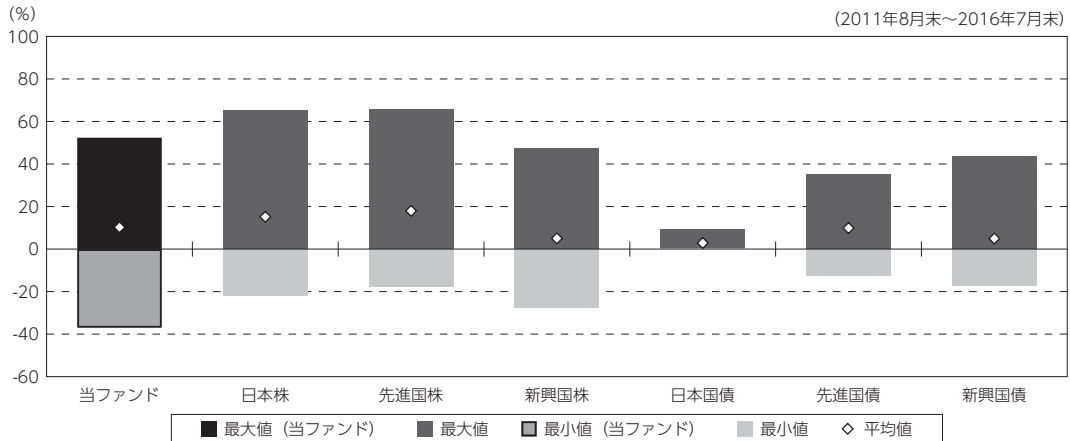
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／株式	
信託期間	2011年3月10日から2021年2月15日（当初2016年2月15日）までです。	
運用方針	投資信託証券を主要投資対象として、配当等収益の確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	投資信託証券。
	シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド-BRLクラス	主として世界各国に上場するインフラストラクチャー関連の株式など。
	短期公社債マザーファンド	わが国の公社債。
運用方法	シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド-BRLクラス（以下、「インフラファンド」という場合があります。）への投資を通じて、主として世界各国のインフラ関連企業が発行する上場株式などに実質的に投資します。 各投資信託証券への投資割合は、資金動向や市況動向などを勘案して決定するものとし、インフラファンドの組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。 投資対象とする外国投資信託では、原則として投資対象資産の発行通貨を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行います。	
分配方針	①分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②分配金額は、委託者が基準価額水準や市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	52.4	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 37.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	0.4	△ 12.3	△ 17.4
平均値	10.2	15.2	18.0	5.0	2.8	9.9	4.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年8月から2016年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2012年3月以降の年間騰落率を用いています。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI — KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA — BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディパーシファイド (円ベース)

※各指数についての説明は、P13の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算してあります。

各資産クラスの騰落率について

騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しております。株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、株式会社野村総合研究所及び各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年8月15日現在)

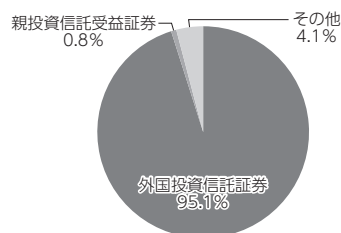
○組入上位ファンド

銘柄名	第64期末
	%
シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド-BRLクラス	95.1
短期公社債マザーファンド	0.8
組入銘柄数	2銘柄

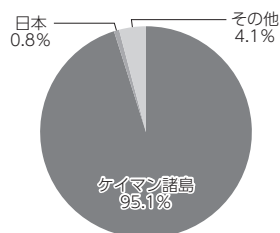
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載してあります。

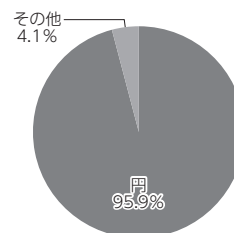
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

項目	第59期末	第60期末	第61期末	第62期末	第63期末	第64期末
	2016年3月15日	2016年4月15日	2016年5月16日	2016年6月15日	2016年7月15日	2016年8月15日
純資産総額	2,250,367,925円	2,249,532,579円	2,203,376,139円	2,172,320,823円	2,446,077,255円	2,408,691,770円
受益権総口数	3,279,421,244口	3,249,530,090口	3,240,172,597口	3,240,635,906口	3,258,678,983口	3,268,454,665口
1万円当たり基準価額	6,862円	6,923円	6,800円	6,703円	7,506円	7,370円

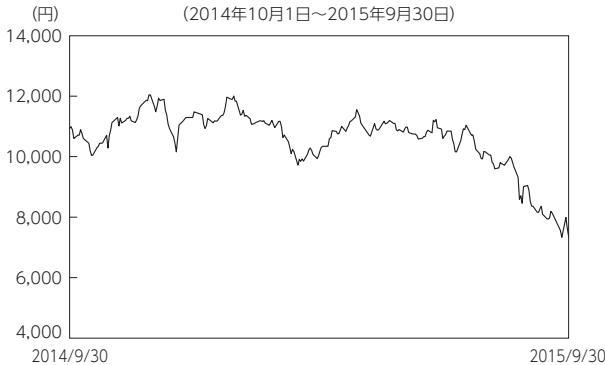
* 当作成期間(第59期～第64期)中における追加設定元本額は285,296,016円、同解約元本額は380,368,248円です。

組入上位ファンドの概要

シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンドーBR Lクラス

【基準価額の推移】

(2014年10月1日～2015年9月30日)



【1万口当たりの費用明細】

(2014年10月1日～2015年9月30日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

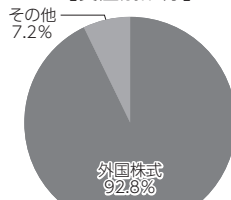
【組入上位10銘柄】

(2015年9月30日現在)

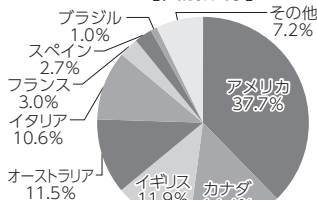
	銘柄名	業種	通貨	国(地域)	比率%
1	National Grid Plc.	ガス	英ポンド	イギリス	7.0
2	Eversource Energy	電力	米ドル	アメリカ	4.5
3	Williams Cos. Inc.	パイプライン	米ドル	アメリカ	4.5
4	RAI Way SpA	エンターテインメント	ユーロ	イタリア	4.2
5	Kinder Morgan, Inc.	パイプライン	米ドル	アメリカ	4.1
6	DUET Group (a)	電力	オーストラリアドル	オーストラリア	4.1
7	Crown Castle International Corp.	不動産投資信託	米ドル	アメリカ	4.0
8	Enbridge, Inc.	パイプライン	カナダドル	カナダ	3.9
9	Sempra Energy	ガス	米ドル	アメリカ	3.6
10	APA Group (a)	パイプライン	オーストラリアドル	オーストラリア	3.4
組入銘柄数		36銘柄			

- (注) 比率は、「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド」の純資産総額に対する割合で、小数第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注) (a) ステータブル証券-ステータブル証券は、1つの売却可能な構成単位を形成するために契約上1つまたは複数のその他の有価証券と結び付けられた金融商品の一種です。
- (注) 「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド-BR Lクラス」は、「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド」の個別クラスとなっております。
- (注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
- (注) 組入銘柄に関する詳細な情報につきましては、運用報告書(全体版)に記載してあります。
- (注) 上記の表は、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッドの財務諸表をもとに記載してあります。
- (注) 一部、AMPキャピタル・インベスターズ・リミテッド提供のデータより作成してあります。

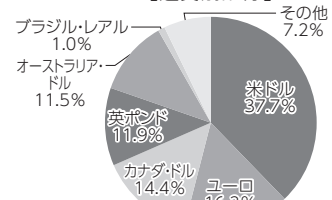
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

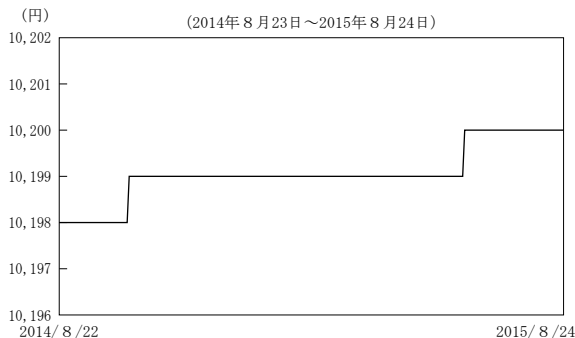


- (注) 比率は、「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド」の純資産総額に対する割合です。
- (注) 「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド-BR Lクラス」は、「シンコウ・グローバル・インフラストラクチャー・エクイティ・ファンド」の個別クラスとなっております。
- (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
- (注) その他は、純資産総額から有価証券を差し引いた数字です。
- (注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。
- (注) 上記のグラフは、ブラウン・ブラザーズ・ハリマン・トラスト・カンパニー(ケイマン)リミテッドの財務諸表をもとに記載してあります。

短期公社債マザーファンド

【基準価額の推移】

【1万円当たりの費用明細】



(2014年8月23日～2015年8月24日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2015年8月24日現在)

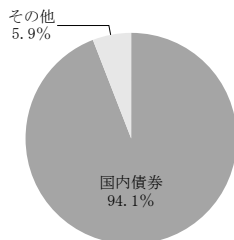
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国（地域）	比率 %
1	第546回国庫短期証券	国債証券	円	日本	24.1
2	第538回国庫短期証券	国債証券	円	日本	24.1
3	第536回国庫短期証券	国債証券	円	日本	24.1
4	第535回国庫短期証券	国債証券	円	日本	14.5
5	第540回国庫短期証券	国債証券	円	日本	7.2
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			5銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

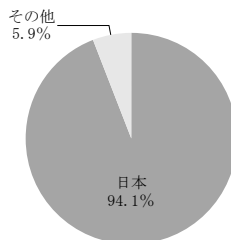
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

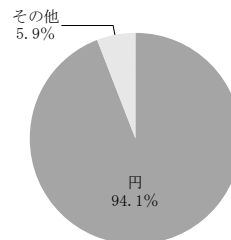
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

＜当ファンドの参考指数について＞

○Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return

- ・Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Returnは、インフラ施設の保有やオペレーションを主として行っている世界の企業の中で、相対的に配当利回りの高い銘柄で構成された指数です。
- ・Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Returnは、公表している機関の知的財産です。同機関は、当該指数の算出、公表、利用などに関する一切の権利を有しております。同機関はファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。

○Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return (円換算)

- ・Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Return (円換算)は、Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Returnを新光投信が円換算したものです。Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Returnは、インフラ施設の保有やオペレーションを主として行っている世界の企業の中で、相対的に配当利回りの高い銘柄で構成された指数です。
- ・Dow Jones Brookfield Global Infrastructure Composite Yield Index Total Returnは、公表している機関の知的財産です。同機関は、当該指数の算出、公表、利用などに関する一切の権利を有しております。同機関はファンドの運用成績などに関する一切の責任を負いません。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞

○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI — KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI — KOKUSAI インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA — BPI 国債

NOMURA — BPI 国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA — BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。

なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス—エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド (円ベース)

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス — エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド (円ベース)は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス—エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2014, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.

<余 白>